

ワイルド研究会報告

佐藤真二
(駒澤大学講師)

平成六年、日本ワイルド協会の研究会は、春と秋の二度、以下のプログラムで開催された。

第一回研究会

日時 平成6年4月2日(土)午後2時より5時

場所 駒澤大学 大学会館

第一部 研究の現状報告

「日本の大学のワイルド研究—卒業論文と紀要論文を中心に」佐藤真二。駒澤大学と駒澤大学大学院を例として取り上げ、過去10年間に、卒業論文と紀要論文において、ワイルドのどの作品がどのようなテーマで研究されたか、そしてその頻度に関して報告された。

「短期大学のワイルド研究—駒澤短期大学の場合」滝静寿(ゲスト・駒澤短期大学教授)。駒澤短期大学において、ワイルドの講義を続けている滝氏によって、作家や作品に対する学生の率直な反応や授業の様子、研究に選択された作品やテーマなどが、豊富な指導体験の中から具体的に語られた。

第2部 日本ワイルド協会の20年を振り返って

「第1回—協会創立の頃」講師・西村孝次、ゲスト・石原武(旺文社)、聞き手・酒井敏、千葉剛 聞き手の準備した「ワイルド協会発足の動機、日本におけるワイルドの系譜、本間久雄・矢野禾積両氏の業績とワイルド協会、西村氏とワイルドの関わり、海外のワイルド研究と日本、今後の日本におけるワイルド研究」というテーマに添って行われた。

第2回研究会

日時 平成6年10月22日(土)午後1時より5時

場所 東京三田 慶応大学 大学院棟

開会の挨拶 河内恵子

「バターズとワイルド」(REQUIESCAT を読んで聴く) 荒井良雄。英国の作曲家バターズが、ワイルドの詩 REQUIESCAT に付した音楽が流され、詩の朗読が行われた。妹の死を悼んだこの詩に、『ハムレット』のレアティーズとオフィーリアの影を、mad

scene と burial scene に言及して読み取るなどの解釈が示された。

「ワイルド関係の新刊書案内」河内恵子。ワイルド関係の新刊書に見られる傾向と、*Mother of Oscar* などの新刊書が紹介された。

「ワイルドの童話のテーマに関する考察」及川徳美。『幸福な王子とその他の童話集』に含まれるすべての童話に関して、innocence と experience を鍵として考察した研究発表であった。

「ペーターとワイルド—2」木村克彦。第17回ワイルド学会に続いて、ワイルドの『ルネッサンス』からの影響を、今回は感覚主義と夢想到焦点を絞った発表であった。主に両者が人生や思想をどの様な色彩に染めあげたのか考察された。さらに続編が予定されている。

日本ワイルド協会二十年史から

「西脇順三郎先生のワイルド協会創立一周年の記念講演テープ」酒井徹。西脇氏のテープが流された後、ワイルドに言及した西脇氏の詩などを交えて、西脇氏の思い出等が語られた。

司会・閉会の挨拶 岩永弘人。

第1回研究会、第2回研究会とも、夏期セミナーや秋期大会とは異なる、少人数の落ち着いた雰囲気の中で行われた。内容も、大会とは一味異なるものが盛り込まれ、新鮮さと興味深さのあるものであった。会終了後、懇親会が開かれ、和やかな空気の中で親睦が深められた。

ワイルド書誌

(1994年7月～1995年5月)

- 新谷 好 『真面目が肝心』の一考察——「バンベリング」と「ファース的な喜劇」をめぐって——, 『追手門学院大学文学部紀要』28号, 追手門大学, 1993年11月
- 千葉 剛 『Oscar Wilde の Fairy Tales (その4) ——*The Devoted Friend*——」, 『英米文学語学研究会論集』, 英米文学語学研究会, 1993年12月
- 三瓶 真弘 『『サロメ』——魔法仕掛けの劇空間』, 『構築』, 第9号, 構築舎, 1994年2月
- 新谷 好 「オスカー・ワイルドの恋愛と結婚に関する伝記的考察」, 『追手門大学英文学会論集』第3号, 追手門大学英文学会, 1994年3月
- 内山 正平 『地球の寿命と人間』, けやき書房, 1994年3月